



命を守り、最大級の警戒と安全・健康の確保で 台風19号による被害・被災の把握と復旧に全力をあげよう

過去最大級の大型で強い台風19号が10月12日の午後7頃に伊豆半島に上陸し、関東から東北地方を直撃・縦断しました。気象庁は13都県の自治体に異例の大雨特別警報を発表し、命を守るための最大級の警戒ならびに安全の確保、避難を求めました。そして現在、家屋の損壊、土砂崩壊、河川の決壊、氾濫、浸水等により広範囲にわたり甚大な被害をもたらしています。犠牲になられた方へのお悔やみを申し上げるとともに、被害に遭われた皆さまへのお見舞いを申し上げます。

JR東日本は台風19号の接近にあたり、10日に首都圏在来線全線で12日から13日に大規模な計画運休を行う可能性があるとして発表し、そして、12日午前9時以降から在来線の運転を順次取り止め、午後4時には新幹線・在来線を含む首都圏全線の運転を取り止める計画運休を実施しました。業務に尽力された皆さん大変お疲れさまでした。

この計画運休は、昨年台風24号、先月の台風15号を踏まえて、国土交通省の「台風19号における計画運休に向けて～鉄道の計画運休の実施についてのとりまとめの更新～」によって早期に判断し、情報発信を積極的に行ったものと考えられます。今後、鉄道施設の被害把握と復旧に向けて動き出しますが、あらゆる系統で昼夜問わず復旧作業の業務に携わる皆さん、何よりも安全第一で二次災害の防止に努めていただくことをお願いいたします。

上陸前から数十年に一度と言われる記録的な暴風と大雨をもたらした台風19号は、通過後の今も予断を許さず、さらなる被害の発生と拡大が予測されており未だに全容が掴めない状況にあります。また、通信手段が途絶え、ライフラインも寸断された中で多くの皆さんが不安で不自由な生活を送られているかと思えます。命を守り、最大級の警戒とともに、安全・健康の確保に努めてください。

組合員の皆さん、どんな些細なことでも決して一人で悩まず組合役員に相談してください。JR東労組東京地本は、組合員・家族の被害・被災状況の把握に全力をあげ、今後も組合員に寄り添い、皆さんの力になるために全力を尽くしていきます。

2019年10月13日
東日本旅客鉄道労働組合
東京地方本部

東京地本は、組合員・家族の被害・被災状況の把握に全力をあげ、
今後も組合員に寄り添い、皆さんの力になるために全力を尽くします